

## 令和4年度宮崎県博物館協議会議事録

日時:令和4年11月18日(金) 13:30~16:00

会場:宮崎県総合博物館研修室1

- 1 出席委員:ハツ橋寛子会長、柳澤一男副会長、永山新一委員、大重美貴委員、田原理恵委員  
松田律子委員、川野美奈子委員、出口智久委員、山下裕亮委員、柴田博子委員、那賀教史委員 11 名  
欠席:堀田由美子委員、山口和代委員、松本祐子委員、片寄元道委員、谷山敦子委員 5 名

### 2 事務局等出席職員

- (1)県文化財課:長友由美子課長、河野耕平主事  
(2)県総合博物館:岩切喜郎館長、赤崎広志副館長、寺原真由美総務課長、黒木秀一学芸課長、  
岩切勝彦副主幹、中山貴義副主幹、津田左知副主幹  
(3)県立西都原考古博物館:中原光晴館長、吉本正典副館長、日高広人主幹、甲斐夕貴子副主幹

### 3 会議次第

- (1)開 会  
(2)開会あいさつ 総合博物館館長 岩切喜郎  
(3)委員、職員紹介  
(4)会長選出・会長あいさつ  
(5)議事  
①令和3年度総合博物館の事業報告及び評価について  
②令和3年度西都原考古博物館の事業報告及び評価について  
③令和4年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について  
④その他  
(6)閉会あいさつ 西都原考古博物館長 中原光晴  
(7)閉 会  
(8)特別展観覧「発掘された日本列島2022」観覧

### 4 質疑応答

- (1)令和3年度総合博物館の事業報告及び評価について

○委員

令和3年度より博物館のホームページがリニューアルされたことにより、とってもキャッチーで見やすく、いろんな人たちが親しみを持ちやすくなったものになった。アクセス数も多いがこういった情報は更新されないとアクセス数が減っていくが、更新も平均で1日に1、2回されている。これは大変な労力と考えるが、こういった組織や体制で行っているのか。

○総合博物館長

ホームページへの情報掲載やSNS等の投稿については、各担当学芸員が時間を見つけて、できるだけ早く情

報発信を行っている。こういった形で対応をさせていただいた結果、多くの方に見ていただくことにつながっており、それが担当のモチベーションにもつながっている。今後も頑張っていきたい。

#### ○委員

令和 3 年度はコロナ禍であるにもかかわらず、本当によく頑張っておられたと考える。特に他機関との連携において、目標値をめざして努力をされていたと感じた。学校との連携もさることながら、福祉施設の連携における「地域回想法」は、平成 27 年から非常に素晴らしい取り組みができていると感じている。7 年間も継続しているということであれば、ある程度の成果も出てきているのではないと思うが、もし認知症予防に関して、非常に効果が出ているような事例があれば、フィードバックすることで、よりたくさんの施設の方たちが、さらに参加していただけるような一つのインセンティブになると考える。そういった PR についても検討していただきたい。いずれにしても連携を強めることで、さらに利用者をふやしていただきたいと感じている。

#### ○総合博館長

他の機関との連携については、我々としても県の組織としての役割と捉え、今後も頑張っていきたいと考えている。回想法は少人数の高齢者の方々と、本館の展示解説員が至近距離で展示物について語り合う形式のためコロナ禍で実施するのが困難な内容である。対象も高齢者ということもあり、コロナ禍になり長期間この事業は実施できない状況が続いていた。そのような中、施設の方からの要望に応じて今年の 10 月からようやく実施を再開したところである。コロナ禍におけるこの事業の進め方についても、これから改めて検討を進め、その中で、何らかの成果が整理できれば、今後紹介をさせていただきたいと考えている。

#### ○委員

館内での取組に加え、神宮から民家園・博物館につながる非常に素晴らしい遊歩道がある。そういった館外のフィールドで高齢者の方がちょっと体を動かしたり、ウォーキング等の活動と、博物館内でのソフトを組み合わせることで、よりその体を動かし、頭の体操にもなるようなプログラムを作ることができればもっと福祉とか介護の中で連携が広がるのではないかと考えたことがある。観光資源になるとともに、いろいろな活用ができると思うので外のフィールドと中の館内のプログラムを組み合わせた今後のあり方の一つの切り口として検討していただきたい。

#### ○総合博館長

遊歩道については、基本的には宮崎神宮の土地であるが自由通路でもある。福祉施設の皆様方のご意見を伺いながら、出来るものについては対応していきたい。

#### ○委員

コロナ禍で 30 日間も来館者を受入れることができないことにより、館の関係者の方々のモチベーションの維持も本当にも大変だったであろうことを察する。そういった中で、個別テーマで研究を深めていたことなどを改めて知った。

教育関係では、現在子供たちが 1 人 1 台タブレット端末を利用し、手元で教科書とは違ういろいろな資料を見ることが可能となり効果的に学力向上へ繋がっていると思っている。先日特別展において、近隣の小学生が楽しそうに見学しているところを見せていただいた。勤務校が日南市で、なかなか頻繁に行くということはないが、何らかの機会を利用してタブレット以上の、生のものを見せたいと考えている。また、どこでも博物館を利用し、更に自然界や歴史に対して興味を高めさせたいというところを思ったところである。博物館側が情報発信しているので、私たち教員もその情報をしっかりと受け取らないといけないと感じた。

#### ○総合博館長

まさに今が小学校の遠足の時期で、週末の金曜日になると午前午後、たくさん児童の皆さんに来ていただいている。また、現在行っている特別展については、小学生は無料で考古学に関する展示物を見ていただき、楽しんでいただいていると考えている。どこでも博物館については、我々としては今後も是非継続していきたい事業であると考えている。令和 3 年度は、日南市の県立くろしお支援学校で博物館の展示をさせていただき、非常に有意義な時間を過ごさせていただいた。

○令和 3 年度総合博物館の事業報告及び評価については原案通りで承認。

## (2) 令和 3 年度県立西都原考古博物館の事業報告及び評価について

### ○委員

11)に関する収集、分類、登録件数における写真のデジタルデータ化は、既収資料の写真データ化であれば新収蔵資料の写真データ化ではないため、内部評価の実績値と異なるのではないのか。また、44)に関する内容で、バス路線が廃止になったことにより、アクセスが不便になった状況を受け、館独自で何かができるとは思わないが今後を見通しての考えなどがあれば教えていただきたい。

### ○西都原考古博副館長

ご指摘のとおり既収資料やモノクロ写真のデジタルデータ化である。ただし、資料をデジタル化することで新たな活用の多様性が生まれることも考えられる。この点に関しては新ビジョンの策定時に反映させたいと思う。バス路線廃止による影響は地域交通全体の問題となっている。県外史跡で実施しているような、巡回バスの運用などについて、西都原古墳群の関係者が集まる西都原連絡会でも話題となるが、実現は難しいのが現状である。

### ○委員

先日の古墳まつりの時に伺った際、県外の観光客が西都原に行くための交通手段に関して、お困りのようだった。県の観光振興としてもぜひご検討いただきたい。

### ○西都原考古博物館長

西都原考古博物館、西都原古墳群は県内有数の観光地の中にあるということもあり、西都市とも話す機会がある。西都市が考える企画構想というのもあり、構想の中の一つのコンテンツという位置付けもある。本館や西都原古墳群も含め、自転車の活用や記紀の道に人を誘導するなど、今後も関係の方々との意見交換をしていきたいと考えている。

### ○委員

総合博物館との算出に違いがあるが、西都原考古博物館の個別評価から総合評価を出す計算式について教えていただきたい。

### ○西都原考古博副館長

私どもの評価の方法として、内部評価の 3 を標準とし、項目数に 3 をかけたものを母数として、個別評価の実績の合計を割ることで達成度を測っている。3.1 以上になると総合評価を 4 としている。評価のすりあわせは検討課題として認識している。

### ○委員

年報や研究紀要をホームページで公開したらどうかということを申し上げた。県総合博物館は年報をホームページで公開しているが、研究紀要は著作権の問題でこれから検討したいとのことであった。最近は学会においても掲載論文に関してホームページ上で公開しようという方向に徐々に傾いている。内部職員が執筆した場合

著作権はないが、外部の方が執筆する際は、事前に1年後ホームページで公開する事の許可をいただければ支障はない。刊行物は出すことではなく、多くの方に見てもらい読んでもらうことが目的である。そのためには、ホームページで公開するという手法は素晴らしいアイデアだと思うので是非とも実施していただきたい。

○委員

民俗の分野でも、大学も含め多くの論文を出す。そうすると、かなりの印刷物も出る。論文活用の視点からすると、日頃から色々なところから早く情報を取りたいという意味では、電子データとして公開されることに私も賛同する。また、アンケート回収率が低いという問題がありましたが、西都原考古博物館の展示室から出た明るい空間でアンケートを書いていただくのも一つの方法ではないかと考える。特別展をやる場合に、あの場所で狭くはないかという気がする。構造上難しいかもしれないが、できたら、研究されたことが少しでもたくさん展示されると良いのではないかと考える。

○西都原考古博物館長

アンケートにつきましては、ご意見の通り、館内のどこが一番書いていただけるか、書きやすいかという観点をもとにしたアンケート実施場所の選定やその方法を含めて今後検討したい。特別展のスペースについては、やはり構造的なものがあるため、その時にあった展示会をいろいろ工夫して実施していきたい。

○令和3年度西都原考古博物館の事業報告及び評価については原案通りで承認。

(3) 令和4年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について

○委員

両館とも一般の方々に対するいろいろな知識を広める活動については豊富な取組がある。特別展も非常に新しい切り口や内容があり、どんどん進み新しい力が出ていると感じさせていただいている。一方専門家の集団でなくてはならない事からも先ほどの意見にもあったように、ホームページ上における研究内容の公開を進めていく必要があると考える。因みに本年度、総合博物館での研究発表会を令和4年度は、実施するのか。

○総合博物館長

調査研究発表会は、例年どおり総合博物館の第3回館内研修の一環として実施をする予定である。

※ 事業計画に追記修正

○委員

西都原考古博物館ではデジタルで音声ガイドの活用が進んでいるようだが今後の展開について教えていただきたい。

○西都原考古博物館長

館内で展示解説のアプリをダウンロードして、展示室の各所にあるQRコード読み取ることで4か国語での案内を行っており、10月から再開した音声ガイドジャケットによる解説サービスも活用している。周知が不十分であることは反省すべき点であり、今後しっかりと稼働させていきたいと考えている。

○委員

総合博物館の令和3年度事業報告にあった外部運営資金の獲得は素晴らしいことだが、令和4年度の事業計画に無いが行わないのか。

○総合博物館長

本年度も外部資金の調達については、非常に前向きに積極的に獲得していきたいと考えて活動している。

※ 事業計画に追記修正

#### ○委員

情報発信において、結構な頻度でホームページを更新されたり、いろんな媒体を使って情報発信をされているが、本来の業務の支障になることを少し心配している。情報発信は、その道の専門の方々に外部委託をすることで、より効果的な情報発信ができるのではないかと考えている。この件は予算にかかわることなので、今後検討されるとありがたい。また、アフターコロナを見据えて、何かお考えがあれば教えていただきたい。

#### ○総合博物館長

まずホームページの対応につきましては、大規模な改修等々につきましては当然我々の手に負えるものではないので、そういった必要が出てきた場合はその道の専門の業者をお願いをしている。現在、我々としてはタイムリーな話題や情報をいち早く提供したいというモチベーションの中で、各学芸員が取り組んでおり、今後もしばらくは続けざるをえないと考えている。アフターコロナについては、これまで中止をしていた回想法、民家園ボランティアによる火入れ等を10月から再開している。一方で、現在も常設展における接触型の展示機器やそれらシステムを動かすためのボタンスイッチ等々の触る部分については利用中止としている。また、昔の遊びという催しも、遊び道具を共用し、密を避けることが難しい点から中止をしている。コロナの取り扱いが変わっていくことを注視しつつ可能な限り再開できるように対応していきたいと考えている。

#### ○西都原考古博物館長

当面は with コロナであろうと考える。今年度 CO<sub>2</sub> の測定器を設けて実際に観察した結果、大まかに言えば100人で1時間までの受け入れが限界と分かったので修学旅行の受入れ等も工夫して行っている。また、コロナに限らず新しい動きとして、フェリーの新船にかかわり神戸市の三宮の地域づくり協議会との繋がりをもうけることで神戸市との交流を進めている。これは博物館にだけということではなく宮崎県全体にかかわる内容で、日南海岸、西都原、高千穂といったコースになるが、そうした中で送客するといった話がある。また、たくさんの子供たちが修学旅行等で来館されるが、当館はフィールドミュージアムという側面もあるため、できるだけ外での活動も勧めていきたいと考えている。

#### ○委員

現在いろいろな制限がある中、観光客がどんどん戻ってきている状況にある。ここでその人達をキャッチしていかないと離れていくと考える。どういった対応を今後とるのかを考えていかないと、今までと同じことをやっていても観光客はおそらく増えていかないと考える。戻すところは戻す、新しく変えるところは変えていくことで魅力あるものとなるのではないかと考える。

#### ○委員

4館見学ツアーとはどのようなものか。

#### ○総合博物館長

近隣の県立施設である総合博物館、県立図書館、県立美術館、県立芸術劇場の4館をめぐるツアーを例年実施している。

#### ○委員

ツアーという1か所だけでなく拠点をつなぐ企画は魅力的である。他館の紹介や情報を提供することでお客さんを誘導することになるのではないかと考える。

#### ○委員

令和3年度の反省や課題を踏まえて、早期に取り入れていただけるものを、計画の中で組み込んだり、長期的に計画や予定をしていただいていることに大変感謝している。両館とも宮崎県の魅力がいっぱい詰まった場所で

あり、教育関係者という立場から子供たちが本物を感じ取ってくれる場所だと思っている。当然 SNS やホームページでの情報発信で、子供たちが触れる機会というものもあって良いが、やはりできるだけ実物に触れて欲しいと考えており、当然宮崎県に由来するものや伝えられたものは大切と考える。また、特別展の工夫を通じて、宮崎ではなかなか経験できないものや、宮崎にはないものも、両博物館において経験させていただけるというのも、非常にありがたいと思います。特別展については、今後見通しを持って進めていただけるといいと考えている。

#### ○委員

総合博物館の方で、総合調査研究ということで川に着目した研究が素晴らしいなど考えているが、平成 27 年度から、小丸川の水系の調査、そして、令和 2 年度から五ヶ瀬川と北川水系ということで調査が進んでいるようだが、令和 6 年度以降はどのあたりを考えているのか。構想があれば教えていただきたい。

#### ○総合博物館学芸課長

水系別調査の今後については、県北の方が終わりましたので県中、県南にシフトしながら調査を続けていくという計画ではおります。

#### ○委員

川内川水系を取り上げていただければありがたい。

#### ○委員

私の勤務校は、障害のある子供たちの在籍する学校で、両館での遠足や校外学習などをぜひ利用させたいと思いつながり、子供たちの実態等から、実現できていないところがある。様々な子供たちの興味関心に合わせた、体験的な内容を非常に工夫されていて、本当にすばらしく、もっともっと多くの方たちが利用できるような状況になっていくことを心から思っている。本校の子供たちは車椅子を利用するなど重度な障害をもつ子どもたちも在籍しているが、もしオンラインであれば、体験できるにこしたことはないが、それでも VR とか様々あるようですので、学校にしながら、体験できたり、また一部のものでも届けていただいて、体験できたりすると大変効果的かなと思う。もし開設される講座の中で、この講座は、オンラインでも可、ハイブリットで、参加できますというようなものがあると、非常にありがたいと思う。県民の宝であるすばらしい収蔵品等が広く県民に十分理解されてないことは、何とか改良できないものか。また、こんなに多くの取り組みがされているということを改めて実感させていただいた。

#### ○総合博物館長

支援学校に対する支援としては、令和3年度、どこでも博物館事業で県立日南くろしお支援学校を訪問した。また、その前年度にあたる令和2年度は、県立都城さくら聴覚支援学校でも実施した。どこでも博物館事業については、応募により事業場所の選定をしており、支援学校の皆様からも結構応募をいただいている状況にあるが、我々としても予算の都合上 3 ヶ所での実施が精一杯で、十分にお応えできてないという状況である。非常に心苦しく思っている。今後も、活動は続けていく所存である。

#### ○西都原考古博物館長

本館の古代生活体験館では、実際に、自分で動いて火を起こす。粘土をこねて土器を作る。ご飯を炊くといった活動になっているため参加の対象としては限られてくるという実態がある。お話を伺って、今後何か出来る取組がないかについて検討したいと思う。

#### ○委員

今年度は、先ほどの説明でほぼ様々な展示会等々中止にはなっていないという報告を受けたが、一部台風など

で中止になったところもあったようだ。こういった場合オンラインに切り換える等して中止にせずに実施することはできないのか。

○総合博物館長

博物館総合の講座については、対面でないとできないというものにかぎり完全に中止という形をとった。オンライン開催については、可能なものについてはこれまでも幾つか実績があるので、今後必要に応じて、その対応はとって参りたい。

○委員

西都原考古博の評価の 3 ページのところも、質問の 22 にある入館者としてオンライン参加の方もカウントしているのか。

○西都原考古博物館長

外部評価の中でご質問のあった点については、オンライン参加者は来館者としてカウントしていない。

○総合博物館の事業計画について、一部修正を加える事で承認。

## 【その他】

事務局より欠席の委員からの提言を紹介

先ほどよりいくつかご発言のあったフィールドミュージアムや神宮の森の活用といった屋外展示の可能性について、本日欠席の委員からコロナ禍における屋外展示に関するご提言をいただいた。我々でも一部意見交換を行ったところ、天候やセキュリティに関する懸念があるといった話になった。すでに今年度も総合博物館では、夏の特展において前庭に写真コーナーを設置する等の活用を始めており、考古博物館も西都原全体を使った展示という概念をもって取り組んでいる点がある。これを学芸員全員に見せて、野外展示の可能性というのも考えることは伝えたいと思っている。